

2025 年 7 月～9 月 活動報告

天塩町地域おこし協力隊 前川康生

皆様、こんにちは。天塩町地域おこし協力隊の前川康生です。着任してから半年が経ちました。日々の活動を通じて、町の歴史や文化、そして人の温かさに触れながら学ばせていただいております。まだまだ町民の皆様に顔を覚えていただくには時間がかかるかもしれませんが、資料館での活動や学校との連携活動などを通じて、少しずつ交流の輪を広げていきたいと考えています

○7 月の主な活動

日付	活動内容
7 月 4 日	第 63 回 北海道博物館大会
7 月 16 日	天塩高校 1 年生 総合的な探求の時間「地域の人に話を聞く会」
7 月 16 日～18 日	道みん日 天塩川歴史資料館でのイベント
7 月 29 日～30 日	東京農業大学 宇仁義和さま 来館 北海道博物館学芸員 尾曲香織さま 来館 資料整理などについての相談

7 月 4 日、北海道博物館協会が主催する「第 63 回北海道博物館大会」に参加し、天塩川歴史資料館（天塩町教育委員会）は新たに北海道博物館協会へ加盟しました。加盟により、道内の博物館施設との連携や情報交換が一層活発になり、保存・修復に関する専門知識を持つ館との相談や協力も可能となります。今後は、資料館の活動をさらに充実させ、地域文化の保存と発信に役立てていきます。北海道博物館協会の活動や目的について詳しくは、公式ホームページをご覧ください。[北海道博物館協会公式サイト](#)

7 月 16 日から 18 日の 3 日間、天塩川歴史資料館では「道みんの日」に合わせた特別イベントを開催しました。期間中は入館無料とし、予約制による学芸員のガイドツアー、音声ガイドの試験運用、さらにアンケートにご協力いただいた方へ天塩町オリジナルグッズをプレゼントする企画を実施しました。3 日間の短い期間でしたが、多くの皆さまにご来館いただき、誠にありがとうございました。来年も「道みんの日」を盛り上げられるよう、さらに工夫を重ねて取り組んでまいります。

○8月の主な活動

日付	活動内容
8日～9日	オホーツクミュージアムえさし 学芸員研修
8月中	昭和15年 積丹半島沖地震についての調査

8日から9日にかけて枝幸町のオホーツクミュージアムえさしで学芸員研修を受講し、展示や保存の工夫、体験講座の取り組みなど多くの学びを得ました。「学芸員の存在を町民に周知することが大切」との助言もいただき、体験講座やキャプション追加など“目に見える変化”を早期に実施していきたいと考えています。改めまして、オホーツクミュージアムえさしの職員の皆さまに心より感謝申し上げます。

8月には、昭和15年（1940年）に発生した積丹半島沖地震について調査を行いました。2年前に寄贈された7枚の写真のうち3枚には、当時の津波による天塩町の被害の様子が写されていました。さらに他の写真が残されていないかを確認するため、学芸職員部会（各地域の博物館職員によるネットワーク）や北海道新聞天塩支局の塩野洋支局長の協力を得て調査を進めました。その結果、津波被害に関する記録を新たに集めることはできましたが、追加の写真は見つかりませんでした。今後も調査を継続し、町民の皆さまに成果を公開していきたいと考えています。

○9月の主な活動

日付	活動内容
3日	留萌管内地域おこし協力隊ネットワーク 資料館視察と交流会
6日	札幌大学教員 坪田芳典さま 来館 資料館運営・活動についての相談
18日	筑波大学 麗澤大学関係者の応対
19日	高大連携シンポジウム
20日	天塩まちづくりシンポジウム（高大連携発表会）

9月3日、留萌管内地域おこし協力隊ネットワークの皆さまが資料館を視察に訪れました。このネットワークは、留萌管内各地の協力隊員が所属し、孤立しがちな隊員同士をつなぐ場となっており、活動上の悩みや成功事例を共有し、互いに励まし合える関係を築くことができます。来町された隊員からは、「以前にも天塩町を訪れたことがあるが、資料館の存在は知らなかった。天塩川歴史資料館の存在感をもっと示すべきだ」というご意見をいただきました。その原因を調べたところ、資料館へ案内する看板がなく、ポスターやチラシも用意されていなかったことが分かりました。この反省を踏まえ、来年度は資料館への人の流れを意識した動線づくりに取り組みたいと

考えています。



羽幌、苫前、初山別、留萌の地域おこし協力隊の方々に天塩町までお越しいただきました。誠にありがとうございました。

19日と20日には、「高大連携シンポジウム」および「天塩まちづくりシンポジウム（高大連携発表会）」に参加しました。私は現在、「地学協働コーディネーター」という役職を担っています。これは、地域住民の一人として地域と学校をつなぐ“橋渡し役”を務めるものです。天塩町に来てまだ数か月の私が選ばれたことは力不足かもしれませんが、精一杯取り組ませていただいております。そのため、これまでに数回天塩高校を訪れ、高校生たちがどのように取り組んでいるのかを見学してきました。そうした経緯もあり、今回のシンポジウムでは主に補助的な役割を担いながら、運営のサポートに携わりました。高校生と大学生が協力し合う姿を間近で見ることができ、今後の活動にとっても大きな学びとなりました。



19日には、筑波大学と麗澤大学の学生たち、そして天塩高校2年生が、発表に向けた資料作成に取り組んでいました。これまではオンラインでのやり取りが中心だったため、実際に顔を合わせて話すのはこの日が初めてだったそうです。会場では、とても活発な議論が交わされていました。



20 日に行われたシンポジウムの様子です。大勢の前で原稿に頼ることなく堂々と発表をやり遂げた生徒たちの姿は、本当に立派でした。

○今後の活動

日付	活動予定
10 月 8 日～9 日	北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修
10 月 3 日、10 日	天塩高校 1 年生 植樹体験の事前学習と体験
10 月 23 日～24 日	地学協働・地域コーディネーター研修
11 月 20 日～21 日	北海道博物館協会学芸職員部会第 49 回総会・研修会

休館期間中には、展示品のキャプション（説明文）の追加や、来年度に予定している体験講座の準備、聞き取り調査などを進めています。

特別展示室では、第 34 回道北地区博物館等連絡協議会巡回展「巳年のへび展」を、9 月 17 日から 10 月 12 日まで開催いたしました。私自身が巳年生まれということもあり、この展示にはひとときわ親しみを感じていました。今回ご覧いただけなかった方は、次の開催地である枝幸町の「オホーツクミュージアムえさし」にてご覧いただけます。オホーツク海方面へお出かけの際には、ぜひ「オホーツクミュージアムえさし」に足を運んでみてはいかがでしょうか。

以上で今回の活動報告を終わります。今後とも天塩町地域おこし協力隊をよろしくお願いいたします。